

## 国語の授業改善へのダイナミックチャレンジ

本日2校時に、川崎先生がフォローアップ研修の一環で国語の授業を公開しました。

本時は、「繰り返しのよさを考え、音読の工夫を話し合うことができる」ことを目標とした「おおきなかぶ」の授業でした。

「あまい あまい かぶになれ」という繰り返し（反復）表現の意味・意図・効果について考え、それを音読に生かそうというものです。川崎先生の今回の指導案は、この繰り返し表現の理解について特に強調したものになっています。

私はこの授業改善に対する姿勢は素晴らしいと思います。

教材で何を教えるのか。よく言われるフレーズです。この時、大切なのは、「教材を」ではなく、「教材で」ということです。「教材を」分からせるのではなく、「教材で」子どもの力を引き出すとともに、新たな力を育てるのです。

私が担任時に学んだ「文芸研」では、国語科の目的は、「言葉や人間の本質、法則、真理、真実、価値、意味等を分かる力、認識する力（ものの見方・考え方）」を育てると表現されています。

文芸研では、「ものの見方・考え方」を、系統的に9つに整理しています。

○観点 ○比較（類比・対比）○順序

○理由・原因・根拠 ・・・・

これらを「教材で」系統的に教えていくことで、子どもに、「認識する力」を育てていくとしています。

本日の授業では、これらの中の「比較」の一つである「繰り返し」という認識の仕方について教える授業です。繰り返しは「類比」とも言い、類比の一つである反復表現は、それを強める（強調する）表現です。

今日の「あまい あまい」は、普通のあまきではなく、もっと強いあまきを表す言

葉です。

昔話の最初に出てくる表現「むかしむかし」も同様です。このように物語文には反復表現はたくさん出てきます。できるだけ早く、反復表現の意味について教え、その後の教材で、繰り返し学ばせてほしいと思います。そして、単純な文字（言葉）の反復から、内容（人物の言動等）の反復にも気づかせていきます。最初は、児童は、文字の反復のようには「目には見えない」ので、気がつかないでしょうが、授業によって、反復されていることに気づいた時、初めて見えなかったことが見えてくるのです。これこそが、授業の持つ意味です。「授業をしてみんなで考えたから、これまで見えなかったことが見えてきたね。」と私もよく言っていました。

今日の授業で、1年生でも「ものの見方・考え方」を特出しして指導案を考え、授業されたことはとても素晴らしいと思います。常にこの様な授業はできないでしょうが、指導する教師はしっかりと意識しておきたいものです。

文芸研については私もそんなに極めたわけではありませんが、教材解釈には非常に役立つと思います。興味のある先生は、書籍から学んでみるのもいいと思います。私も、それ以降、国語が大好きになりました。

2時間目を参観した市教委の楫間指導主事が今日の授業を見て、「良城小が国語の授業改善に力を入れていることがよく分かりました。」と言われていました。

図書館教育の取組をきっかけにして、多様な国語教育の研究がなされていることを本当にうれしく思います。

これも立派なダイナミックチャレンジです。川崎先生、これからも頑張ってくださいね。授業提供ありがとうございました。